

第3期沼田町総合戦略

沼田町役場産業創出課企画政策グループ

1 はじめに 沼田町の概要

北海道空知地方北部、札幌市から北へ約120km、旭川市からは西へ約45kmほどの距離にある、人口2,700人ほどの小さなまち・沼田町。石狩平野の北端に位置し、町域のほとんどが山岳地で占められ、南部に広がる平坦地に市街地や水田地帯が広がっています。美しい山々と、雨竜川や幌新太刀別川などの河川による清らかな水がもたらす肥沃な土地に恵まれた、四季の移り変わりを感じられる自然豊かな美しい街です。



沼田町風景

北海道唯一の勇壮な喧嘩あんどんで知られる「夜高あんどん祭り」や、幌新地区の溪流に舞うほたる、冬の豪雪を逆手に取った雪の利活用の取組や、道内屈指の化石の産出地、そして米や加工用トマトといった農産物など、誇れるものが多くあります。魅力的な要素が多いだけに移住者にも人気で、某雑誌の「住みたい田舎ランキング」では北海道エリア総合ランキングで連続1位を獲得しています。旧JR石狩沼田駅からの徒歩圏内にほとんどのインフラが集約されているといった暮らしやすさにも注目が集まっています。



夜高あんどん祭り

2 沼田町の人口の推移

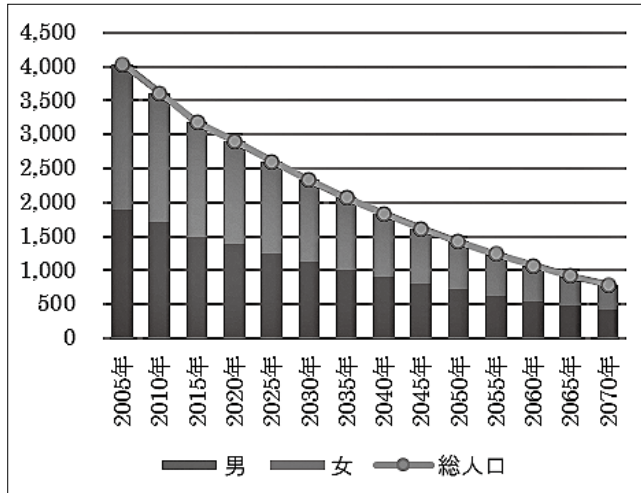
沼田町では、1955（昭和30）年に19,362人に達しましたが、炭鉱が全て閉鎖された1970（昭和45）年には8,177人まで人口が急激に減少してから現在まで人口減少が続いています。

1972（昭和47）年以降、自然増減（出生数－死亡数）については、沼田町の社会的背景などから母親世代の人口減少により出生率の低下や出生数が減少傾向にあったものの出生者数が死亡者数を上回っていたため「自然増」の状態でしたが、1989（平成元）年以降は逆転し、死亡数が出生数を上回り、「自然減」に転じています。

社会増減（転入数－転出数）については、2015（平成27）年、2017（平成29）年、2018（平成30）年、2021（令和3）年、2022（令和4）年と、社会増となる年もありますが、多くは一貫して転出超過（社会減）が続いています。

2025（令和7）年以降については、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計によれば、今後も人

口は緩やかに減少を続け、2050年には、1,421人（現在から約50%減少）になり、2070年には792人（現在から約70%減少）になるものと推計されています。



総人口男女別の推移と将来推計

3 沼田町総合戦略の概要

2014（平成26）年度に、まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）が制定され、2014（平成26）年12月27日に国の人口と現状、将来展望を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が閣議決定され、これを受けて地方公共団体も、国の長期ビジョン総合戦略を勘案して、地域将来展望を提示する地方人口ビジョン及び地域の実情に応じた地方版総合戦略を策定することになり、2015（平成27）年度に沼田町においても「沼田町総合戦略」及び「沼田町人口ビジョン」を策定しました。

その後、国では第1期の5年間の施策の検証を行い、優先順位も見極めながら、より一層地方創生を充実・強化するため、「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」が2019（令和元）年12月20日に閣議決定されたことから、沼田町においても、第1期の枠組みを継承しつつ、これまでの取組の検証や沼田町第6次総合計画を勘案し、切れ目のないよう「第2期沼田町総合戦略」を2020（令和2）年度から、分野ごとに設定した

4つの基本目標の下、具体的な施策を組み立て、取組を進めてきました。

その後国では「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す「デジタル田園都市国家構想」の実現を図るため、「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改訂し、2023（令和5）年度を初年度とする5か年の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を新たに策定し、2022（令和4）年12月23日に閣議決定されました。

これを受けて、沼田町においても、これまで進めてきた地域の社会課題解決や魅力向上に向けた地方創生の取組をデジタルの力を活用して継承・発展させていくために、「第3期沼田町総合戦略」を策定しました。

また、「沼田町人口ビジョン」についても2015（平成27）年度の策定当初の目標数値と現状の人口目標に乖離が生じていることから併せて見直しを行いました。

4 「第3期沼田町総合戦略」の基本目標と具体的な施策

【基本目標1】若者たちが働きたいと思えるような魅力ある産業の創出を目指す

地域に潜在する豊富な資源の磨き上げと人材を活かし、若者たちが働きたいと思えるような魅力ある産業の創出を目指します。

基幹産業である農業においては、持続可能な力強い農業構造の確立に向けた取組として、スマート農業の推進や、「加工用トマト生産量日本一のまち」を目指して、機械収穫や農福連携の実現に向けた取組を進めていきます。また、持続的な町内経済の活性化を目指して、新たな起業や商業活動、商品開発及び事業の継承・継続を推進し、積極的かつきめ細やかな企業誘致活動を展開します。

<方針>

- ① 魅力ある農業をつくる
- ② NUMATA TOMATO TOWN構想の推進
- ③ 商工業の振興
- ④ 雇用対策の推進

【基本目標2】多様なひととの繋がり^{つな}を大切に100年後も持続可能なまちづくりを目指す

沼田町には、夜高あんどん祭りやほたる、化石や雪エネルギーなど他にはない特色ある資源があり、それらを活かし、世界に誇れる環境を創り出すことで、様々な「ひと」が体験・交流・活動できる持続可能な魅力あるまちづくりを進め、沼田ならではの取組を世界に発信することで、交流人口・関係人口の拡大を目指します。

<方針>

- ① 移住定住の促進
- ② 関係人口の創出・拡大
- ③ ゼロカーボンの推進

【基本目標3】子どもたちが帰ってきたくなる夢と希望と誇りのもてるまちづくりを目指す

将来子どもたちが沼田町に帰ってきて活躍し、国際社会をたくましく生きるグローバルな人材を地域ぐるみで育てていくため、沼田ならではの教育による地域学習と英語教育に取り組むとともに、様々な生きた経験を体験できるキャリア教育の充実を図り、また元気にのびのびと運動ができるよう、部活動の地域移行も含む町内スポーツ環境の充実を図ることによる本町独自の教育環境づくりを進めていきます。

子育て世代においては、子育て世帯に対する支援日本一を目指して、更なる子育て支援策の充実を行い、誰もが住んでみたい、住んでよかったと安心して子育てできるまちづくりを進めていきます。

<方針>

- ① 子育て環境の充実・支援、結婚への支援
- ② 沼田らしい教育づくり

【基本目標4】いつまでも安心して暮らし続けることが出来る住民福祉が向上するまちづくりを目指す

「住民福祉の向上」を基本として、人生100年時代を見据えた、「見守り環境の構築」や「歩いて暮らせるまちづくり」を進め、元気な高齢者がいつまでも活躍できる場づくりを目指します。

<方針>

- ① 地域包括ケアシステムの実現
- ② 公共交通の確保・維持
- ③ 農村型コンパクトエコタウンの実現

5 取組事例

①【基本目標2】の具体的な施策・事業「クラフトビール工場整備事業」

全国初となる公設民営クラフトビール醸造所「石狩沼田ブルワリー」を、新たな特産品としてクラフトビールを製造・販売し、「関係人口」「交流人口」の拡大により地域経済の活性化を図ることを目的に建設し、2025（令和7）年4月より醸造を開始しました。



石狩沼田ブルワリー

また、トナリエ北広島にアンテナショップとして沼田町BEER KITCHENをオープンし、石狩沼田ブルワリーで製造したクラフトビールや、特産品のトマトケチャップを使用したポークチャップやナポリタンなどを提供して、沼田町を多くの方に知っていただけるように取り組んでいます。



沼田町BEER KITCHEN



沼田町BEER KITCHEN

②【基本目標4】の具体的な施策・事業「あるくらす団地等におけるICT活用健康・見守り事業」

沼田町地域優良賃貸住宅「あるくらす団地」などに電力センサーを導入することで、入居者の健康づくり・見守り支援につなげて、QOLの維持・向上に寄与する取組を行っています。



電力データ共有の仕組み

電力センサーを自宅の配電盤に設置することで、家庭内の電気機器の使用状況を1分ごとに計測することができます。電力センサーにより得られたデータを基に居住者のライフスタイルを分析することで、居住者の健康状態などを間接的に把握することを可能とし、町民の健康増進及び予防に対する意識変容・行動変容、ご家族が遠隔で見守ることができる仕組みを提供しています。

本取組は2020（令和2）年9月に沼田町と奈良県立医科大学MBT研究所及びMBTリンク株式会社とで包括連携協定を結び専門的な知見を活かし事業を進めています。



包括連携協定書交換式

6 おわりに

沼田町では、町民全員が主体と想像力をもって地域の一体感をつくり出し、常に地域間の「競争」と「共創」を意識しスピード感を持ったなかで、「共創協働のまちづくり」を進めていきます。また、住民とともに参加型の地域づくりを行うことで、地方の小規模自治体における持続可能な事業運営と成長を実現し、子どもたちに帰ってきてもらえる「夢と希望と誇りの持てるまちづくり」の実現に向け、「夢とやさしさにあふれる小さな町の大きな挑戦」をスローガンに「オールぬまたで輝かそう！ぬまたの未来」を合言葉として、町民皆様と100年後を見据えたまちづくりに取り組みます。